

令和2年度

運営に関する計画・自己評価



大阪市立鶴見橋中学校

大阪市立鶴見橋中学校 令和 2 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

平成 28 年度全国学力・学習状況調査結果から、生徒たちは興味・関心をもって学習に取り組んでいるものの学力向上に十分結びついていない。日々の教育活動を通じて、より深く生徒理解に努め、基礎学力の定着・向上を図り、子どもたちが自立するために必要な力を身につけさせる必要がある。また、本校の人権防災教育の取組を充実させ、「いのち」や「つながり」を大切にする教育活動を開拓し、自尊感情の育成に努める。それらのことを踏まえ、次の 3 点を学校課題として取り組む。

- ① 子どもたちが自立し、将来の『社会の形成者』となるような取組
- ② 『いのちの大切さ』『人と人とのつながり』を大切にする教育の取組
- ③ 自己実現を図る教育の取組

中期目標**【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】**

- 令和 2 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95% 以上にする。
- 令和 2 年度末の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 85% 以上にする。
- 令和 2 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を平成 28 年度より 5 ポイント減少させる。
- 令和 2 年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を平成 28 年度より 5 ポイント減少させる。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 令和 2 年度の中学校チャレンジテストにおける標準化得点を、平成 28 年度より 5 ポイント向上させる。
- 令和 2 年度の中学校チャレンジテストにおける正答率 3 割以下の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も平成 28 年度より 8 ポイント減少させる。
- 令和 2 年度の中学校チャレンジテストにおける正答率 5 割以上の生徒を同一の母集団で比較し、いずれの学年も平成 28 年度より 8 ポイント増加させる。
- 令和 2 年度の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。
- 令和 2 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、平均の合計記録を、平成 28 年度より 4 ポイント向上させる。

【その他】

- 本校が進めている人権防災教育をさらに深め、生徒アンケートにおける「命や人権の尊さについて考えたことがある」と答える生徒の割合を高める。
- 令和 2 年度の授業アンケートで「授業が分かりやすい」と答える生徒の割合を 80% 以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標

- 今年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。
- 今年度末の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 80%以上にする。
- 今年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。
- 今年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。

学校園の年度目標

- 今年度末の生徒アンケートにおける「命や人権の尊さについて考えたことがある」と答える生徒の割合を 90%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標

- 中学生チャレンジテストにおける標準化得点を、対府平均比で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- 中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の 7 割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 3 ポイント減少させる。
- 中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を 2 割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 3 ポイント増加させる。
- 今年度の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。
- 今年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である（上体起こし）の平均記録を、前年度より 1 ポイント向上させる。

学校園の年度目標

- 今年度末の授業アンケートで「授業が分かりやすい」と答える生徒の割合を 70%以上にする。
- 校内体力調査において、前年度の校内体力調査より全学年で向上させる。

【その他】

3 本年度の自己評価結果の総括

○子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現

学校で認知したいじめについて、教育相談、いじめアンケートなどを通して早期発見、早期解決に努めてきた。

今年度の調査結果は9件であった。すべての事案について、聞き取りと事後調査、指導を実施し、その解消率は100%となっているが、引き続き見守りを行っている。

「学校のきまり・規則を守っていますか」という質問に対して肯定的な回答をした生徒は、1学期末は80.6%、2学期末は83.3%であった。チャイム着席や服装など生徒のきまりを守る意識が徐々に高まっている結果となった。また生徒会の活動などにより、さらなる規範意識の高まりを目指している。

暴力行為については、今年度については1件の暴力行為があった。この件についても、関係諸機関と連携し、保護者、当該生徒ともに丁寧な対応を行い、解決している。

また、学校の年度目標について、生徒アンケートで「命や人権の尊さについて考えたことがある」という質問に対して、肯定的な回答をする生徒の割合は、1学期86.1%、2学期77.5%となっており、目標の90%を下回る結果となった。

本校での人権防災教育の取組では、子ども防災プロジェクトチーム（子防プロ）を中心に、地域と連携して土曜防災授業、防災研修などさまざまな取り組みを実施してきたが、今年度は新型コロナウィルス感染症の問題もあり、あまり活動ができなかった。本校の人権防災教育の取組は、東日本大震災が起こった平成22年からスタートし、今年で9年目を迎える。今後の防災教育についてはそのあり方・内容について検討している。

○「心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上」

今年度は3年生の中学生チャレンジテストが未実施だったため、比較ができない。実状として、3年生においては進路に向けて徐々に学習意欲が高まってきているものの、学習習慣の定着に向けて、外部サポーター等を活用して基礎学力の向上を図っていきたい。

校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合は、前年度は68.6%、今年度は1学期末のアンケートでは70.3%、2学期末アンケートでは73.5%であり、より前年度を上回る結果となった。人権作文の発表会などを通して、意見を発表することにより、生徒自身の自己肯定感が高まっていると思われる。

体力テストも今年度は未実施である。2か月におよぶ休校期間の結果、生徒たちの体力が少し減少しているようであり、今後の取組により、体力の向上を目指していきたい。

また、学校の年度目標として、授業アンケートで「授業が分かりやすい」と答える生徒の割合を70%以上にするについては、1学期末のアンケートでは86.4%、2学期末アンケートでは70.4%となっており、目標を上回る結果となった。これは、教員全体の授業研究、大学教授を迎えての教員間での研修などを行ってきた結果が表れたものであると考えられ、今後も努力を続けていきたい。

校内体力調査も今年度は実施できなかった。

各学年での体育的行事についても、例年行っている大縄跳び大会、学年レクリエーション、水泳大会、ダンス発表会などは、実施できなかった。3学期に合同球技大会を予定しているが、生徒の楽しみにしている行事であるため、実施したいと考えている。

(様式2)

大阪市立鶴見橋中学校 令和2年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

| | |
|---------------------|------------------------|
| 評価基準 A：目標を上回って達成した | B：目標どおりに達成した |
| C：取り組んだが目標を達成できなかった | D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標 | 達成状況 |
|---|------|
| <p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <p>○今年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。</p> <p>○今年度末の校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を80%以上にする。</p> <p>○今年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。</p> <p>○今年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○今年度末の生徒アンケートにおける「命や人権の尊さについて考えたことがある」と答える生徒の割合を90%以上にする。</p> | |
| | C |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 進捗状況 |
|---|------|
| <p>取組内容①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権防災教育委員会を設置し、年間計画に沿って人権防災に関する取組を実施する。 ・「いのちの学校」を目標に掲げ、生徒向けの授業が展開できるよう外部講師を招いて授業力向上の研修を図る。 <p style="text-align: right;">(防災・減災教育の推進)</p> | C |
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間10回以上の取組を実施する。 ・生徒アンケートで、「命や人権の尊さについて考えたことがある」と答える生徒の割合を85%以上にする。 | |
| <p>取組内容②【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <p>自尊感情を高め、道徳心・社会性を育成するための人権に関する取組を実施する。</p> <p style="text-align: right;">(人権を尊重する教育の推進)</p> | A |
| <p>指標</p> <p>全校生徒参加の人権の取組を年3回以上実施する。</p> | |
| <p>取組内容③【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】</p> <p>地域の方に開かれた学校づくりに関する取組、自分たちの地域や自分たちの将来について考える取組を実施する。</p> <p style="text-align: right;">(学習環境の分析)</p> | B |
| <p>指標</p> <p>地域の方とともにとする取組を年1回以上、自分たちの地域や将来について考える取組を学校全体として年3回以上実施する。</p> | |

| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 |
|--|
| <p>○いじめの認知件数は9件である。(1年生1件、2年生6件、3年生2件) いずれも解消はしているが、日々見守りはしている。</p> <p>○学校のきまりについては、83.3%の生徒が当てはまると回答した。</p> <p>○暴力行為については、昨年度2件で今年度は1件である。</p> <p>○不登校生徒についてはコロナ禍の影響もあり、新たに7名が不登校生徒なっている。(1年生1名、2年生5名、3年生1名)。</p> <p>上記4項目はいずれも2学期末時点である。</p> <p>①について、年10回以上の取組はできていないが、「命の尊さについて考えた」の項目に77.5%と目標指標を下回った。</p> <p>②コロナ対策映像制作鑑賞、平和人権学習、人権集会、人権作文発表会、人権防災授業(一部実施)など、人権に関する取組を3回以上実施した。</p> <p>③火曜日のほっとスペース、木曜日の【人権】の時間など、必ず全員参加ではないが、地域とともに実施する多くの機会を設けた。</p> |
| 次年度への改善点 |
| <p>○全校集会をはじめ、学年集会等でも学校生活について注意喚起をおこなう。生徒たちの声に耳を傾け、適宜教育相談等をおこなっていくことが必要である。</p> <p>新型コロナウイルス感染症に対する対応、その他の感染症が出た時の対応策など、リモートも考えた上で実施計画を考えていくことが必要と考える。</p> <p>①～③の人権の取組についても、大切なことを残しつつ今の社会情勢や子どもたちの状況にあつたものに刷新していくことが必要である。</p> |

(様式2)

大阪市立鶴見橋中学校 令和 2 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

| | |
|-----------------------|--------------------------|
| 評価基準 A : 目標を上回って達成した | B : 目標どおりに達成した |
| C : 取り組んだが目標を達成できなかった | D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標 | 達成状況 |
|---|----------|
| <p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標(小・中学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中学生チャレンジテストにおける標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 ○中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント減少させる。 ○中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント増加させる。 ○今年度の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。 ○今年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である（上体起こし）の平均記録を、前年度より1ポイント向上させる。 <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○今年度末の授業アンケートで「授業が分かりやすい」と答える生徒の割合を70%以上にする。 ○校内体力調査において、前年度の校内体力調査より全学年で向上させる。 ○生徒アンケートで「国際理解についての学習は必要である」と答える生徒の割合を70%以上にする。 | B |
| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 進捗状況 |
| <p>取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上委員会を中心に、学校全体で、家庭学習、放課後学習、テスト前の土曜日学習の取組を実施する。 ・本年度の漢字検定試験を1年生に、英語検定試験を3年生全員に受験させる。 | B |
| (学校力UP支援事業) | |

指標

- ・中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント減少させ、2割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より3ポイント増加させる。
- ・今年度末の授業アンケートで「授業が分かりやすい」と答える生徒の割合を70%以上にする。
- ・大学との連携を図り、専門的な知識や見解を通して、一人ひとりの子ども状況を把握し、年度末の生徒アンケートで「学校に行くのは楽しい」と答える生徒の割合を70%以上にする。
- ・漢字検定、英語検定については、合格率を前年度より向上させる。

取組内容②【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】

国際理解教育委員会・人権防災委員会（ユネスコチーム）を中心に国際理解に関する取組を実施する。

(多文化共生教育の推進)

A

指標 学期に1回以上の多文化共生・社会貢献に関する活動を行い、毎週の朝間研だよりや全校集会などで校内外に発信する。

取組内容③【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】

全学年で行う球技大会をはじめとして、各学年でも体育的行事に取り組む。

(子どもの体力・運動能力向上のための取組の充実)

D

指標

各学年で5時間以上の取り組みを実施する。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

新型コロナウィルス感染症の流行により、すべての指標への影響が出ている。取り組みなどが限られていく中でも、①については、漢字検定も英語検定も実施できた。②についても、小学校への防災出前授業など、コロナ対策をしっかりと行ったうえで実施できた。③については、ほとんどが実施することが困難なため、評価が厳しくなった。

次年度への改善点

- ①については、テスト前の土曜日学習の代わりに土曜授業を実施した。また、漢検や英検の実施はした。
- ②については、全校生徒対象ではないが、【人権】の取組として、月に3回程度、多文化学習を実施した。また、「朝間研だより」による発信だけでなく、「多文化だより」による発信も行うことができた。
- ③については、感染症の影響があり、来年度も密になるような活動は制限されると思われる。各個人に体力の保持増進する力の必要性を促していく。